育成 モノづくり人材 Vol. 76

石川県立工業高校

日本最古、地元産業史映す

創立131年を迎えた日本最古の公立の工業高校。肥前国小城藩（現在の佐賀県）に生まれた納富介次郎が兼六園（金沢市）の中に前身の「金沢区工業学校」を1887年（明20）に創立して以来、歴史を刻む。目を引くのは「県立工業高等学校」という校名。高等学校の名称には地名が付くことが多い中、創立以来の校名を継承し「130年の歴史の重さを感じる」（宮越雅一校長）。

現在の場所に移ったのは1901年。近隣には文化施設が多く「50分の授業の中で、金沢21世紀美術館など七つの学科には機械、繊維、工芸品といった地元の産業構造が投影されている。このうち電気科、電子情報科、材料化学科、テキスタイル工学科は文部科学省の「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）」の指定を受けた2014年度からの3年間で新たな教育プログラムに取り組んだ。SPHは終了したが、17年度から石川県の事業として「地域産業に活力を与える専門的職業人の育成」を打ち出し、全学科で新たな学習内容を開発する。改めて地元の教育機関などと連携し、SPHの経験を生かしていくのが狙いだ。

歴史ある高校だけに地元産業界とのつながりも深い。全校の2年生のうち毎年100人程度がインターンシップ（就業体験）に参加する。地元企業約50社が受け入れ先で、3―5日程度、実際の職場を体験する。

機械システム科の3年生はさらに密度が濃く、毎週1回合計10日間にわたって企業で実習を受ける。07年から始まった「デュアルシステム（長期型企業実習）」では、生徒が20人程度、受け入れ先は毎年10―15社が参加する。当初は試行錯誤していたこの実習も、現在では自社の理解度が深まると受け入れ先企業が積極的で「実際に就職する生徒もいる」（同）。

卒業生の進路は、進学が4割、就職が6割で地元企業が中心。学科に直結する就職先とは限らないが、3年間で培った「粘り強くモノを完成させる」姿勢はどの現場でも必要とされる。これからも地元産業界の信頼に応え、「歴史を受け継ぎ、社会貢献のできる人材」（同）を育てていく方針に変わりはない。

（金沢支局長・本荘昌宏）

（金曜日に掲載）

宮越校長

【DATA】▷校長＝宮越雅一氏▷所在地＝金沢市▷学科構成＝機械システム科、電気科、電子情報科、材料化学科、工芸科、テキスタイル工学科、デザイン科▷生徒数＝945人（5月1日現在）▷主要設備＝マシニングセンター、NC旋盤、フライス盤、電気炉、染色機、電子顕微鏡▷主な進路＝アール・ビー・コントロールズ、金沢村田製作所、コマツ粟津工場、小松精練、渋谷工業、伸晃化学、津田駒工業、トランテックス、別川製作所、北陸電力、金沢大学、富山大学など

機械システム科の実習（ⓒ石川県立工業高校）

無断転載・複写禁止 ㈱日刊工業新聞社